

389) 人生の秋

夕焼け雲を水に映して 学び舎の下 川は流れる  
若かったころ下駄を鳴らして <sup>こまつかばし</sup> 駒塚橋を毎日渡った  
授業にも出ず友と集まり 語った夢よ今は何処に <sup>いづこ</sup>  
若き日は短くて 過ぎし日は夢になる  
いま夏の旅は終わって 安らかに秋が来る

路地裏ぞいの下宿屋の下 濁った水の川は流れる  
六畳一間酒を囲んで 呑んだくれてた 20 歳のあの日  
夜が明けるまで友と論じて 燃えた情熱今は何処に <sup>いづこ</sup>  
若き日は短くて 過ぎし日は夢になる  
いま夏の旅は終わって 安らかに秋が来る

青春時代の思い出ばかり 集めるように川は流れる  
ともに暮らした恋人からの たより途絶えて 10 年が過ぎ  
櫛並木を吹き抜けてゆく さわやかな風今は何処に <sup>いづこ</sup>  
若き日は短くて 過ぎし日は夢になる  
いま夏の旅は終わって 安らかに秋が来る

過去も未来も人の運命も <sup>さだめ</sup> 見据えるように川は流れる  
橋を渡って坂を登れば 昔暮らしたアパートメント  
<sup>たず</sup> 尋ねてみたい気もするけれど 心の奥にしまっておこう  
若き日は短くて 過ぎし日は夢になる  
いま夏の旅は終わって 安らかに秋が来る